

GX率先実行宣言

社会全体のGX加速化に向けて、GX製品・サービスの早期社会実装が極めて重要であることから、当社は自らのScope 1、2の削減取組に加え、これらの製品・サービスが有するGX価値の評価を通じてGX製品の社会実装に積極的に貢献することで、サプライチェーン全体でのGXを推進することを宣言します。

1. 早期の社会実装に貢献するGX製品

当社は、以下に関連するGX製品の早期社会実装に貢献します。

| | | |
|----|----|--------|
| a. | 分類 | 低炭素水素等 |
| | 対象 | アンモニア |

2. 具体的な行動内容

当社は、前項で選択した事項に関連して、具体的には以下の行動を推進することで、GX製品の早期社会実装と社会のGXに貢献します。

| | |
|------|--|
| a. | アンモニア |
| 対象行動 | 宣言対象製品の調達・購買 |
| 概要 | 低炭素アンモニアを調達し、石炭火力自家発電設備の混焼燃料とすることで、発電時までのCO2排出量を削減する。また、自社製品製造プロセスにおいて、アンモニア燃焼時のグリーン電気・蒸気の使用による削減実績量を可視化・製品へ反映することで、製品の環境価値創出に取り組む。これらにより、CO2削減及びGX製品市場活性化への貢献を図る。 |

3. サーキュラーエコノミーの推進

当社は、サーキュラーエコノミーを推進しGXを実現するため、自らのサーキュラーパートナーズ（CPs）への参画や、製造業者と廃棄物リサイクル業者との事業連携を自ら進めるとともに、再生材の調達を積極的に検討することによって、新たな資源の使用や消費を最小限に抑え、既存の資源の価値を最大化する経済システムの構築を目指します。

4. 温室効果ガス削減目標の設定

当社は、サプライチェーン全体でのGXを推進すべく、Scope3の削減に向けて以下の目標を設定します。また、第2項に記載した行動内容が、Scope3の削減に対してどのような効果があるかを以下に示します。

※ 第2項に記載した行動内容がScope1,2の削減に資する場合は、Scope1,2の削減に関して以下に示します。

| | |
|-------|---------|
| a. | アンモニア |
| 削減対象 | Scope 1 |
| 目標年度 | 2030年度 |
| 基準年度 | 2019年度 |
| 目標削減率 | 30% |

| | |
|-------------------|--|
| 削減目標における選択対象の位置づけ | 当社は2030年度にGHG排出量30%削減（2019年度比）を目標に設定、自家発電における非化石燃料（バイオマス、アンモニア）への転換を推進している。具体的には、既に導入しているバイオマスの混焼率増加に加え、2030年度までに導入予定の低炭素アンモニアにより目標削減率の達成を目指す。 |
|-------------------|--|

5.GX製品の社会実装促進に向けた目標の設定

当社は、前項に掲げた削減目標に基づき、以下の時間軸・定量的目標に沿って、第1項で選択したGX製品・技術及びそれらから派生するサービスの社会実装に貢献します。

| | |
|------------------|-------|
| a. | アンモニア |
| 目標年度 | |
| 定量的目標 | |
| 選択対象に関する定量的目標の概要 | |

6.適用範囲

当宣言は、以下の範囲まで適用されます。

| | |
|------|------|
| 適用範囲 | 自社単体 |
|------|------|

当社は、この宣言に基づいてGX価値を評価し、GX製品の早期の社会実装に貢献することで、サプライチェーン全体でのGXを推進してまいります。

2025/7/11

株式会社トクヤマ
執行役員 カーボンニュートラル戦略本部長 井上裕司